

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園北加瀬	種別：認可保育園
代表者氏名：柳澤 妙子	定員（利用人数）： 70名
所在地：〒212-0057 神奈川県川崎市幸区北加瀬2-11-4	
TEL：044-589-6003	ホームページ： https://www.like-kd.co.jp/establishment/nijiiro/HPkitaka-se
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 9名
専門職員	（専門職の名称） 人数
	保育士 8名 栄養士 2名
	看護師 1名 管理栄養士 1名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	保育室6、事務室1、 医務室1、調理室1、前室1、 相談室1、職員休憩室1、 職員更衣室1、調乳室1
	園庭、ホール、エレベーター、1階 ホール吹き抜け、シーリングファ ン、シャワー室2、幼児トイレ1、 乳児トイレ1、職員トイレ1、みん なのトイレ1、洗濯室1、沐浴室1

③理念・基本方針

保育方針

みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛（信頼・安定・共感）

めざす保育園像

- 陽だまりのような保育園
- 地域と共に育つ保育園
- 子どもと共に輝いていける保育園

保育目標

めざす子どもの姿

■自然を愛し、心身ともに健やかな子ども

* 歩く、走る、跳ぶなど戸外での活動をとおして、からだを動かす楽しさを知った子ども。

* 自然と親しみ、情緒豊かな心・知的興味や関心を育て、思考力、認識力を培い、科学的に観察する力を持った子ども。

■自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども

* 意欲・想像を掻き立てられる環境の中で子ども自らが主体的に行動し「やってみたい」と思える子ども。

* 様々な遊びや実体験を通じ想像力を養いながら、正しいと思うことが分かり自分で行動する力、困難にも立ち向かい簡単にあきらめない心をもった子ども。

■「仲間」と関わり、人を思いやれる子ども。

- * 相手の人権を尊重し、思いやりのある子ども。
- * やさしく愛され見守られる中で、人を愛したり、やさしくすることに喜びを持つ子ども。
- 自己を表現できる子ども
- * さまざまな生活の場面で、自分の思いを「自分らしく」表現できる子ども。
- * 豊かな体験を通して物を見たり・感じたり・考えたりし、喜びや驚きを伝えられる子ども。

④施設・事業所の特徴的な取組

- コトニアガーデンというJR都市開発の元に整備された保育園。
 - ・コトニアガーデンのコンセプト…“こども+シニア”に基づき、コトニアガーデンに集う様々な人とのコミュニケーションに特化した保育園を目指しています。コトニアガーデン内のポスター作製や、畑を利用しての地域の方との交流、他園との交流を行っています。エントランスでの栽培物を見に毎年たくさんの方が訪れています。
- 隣接する高齢者施設（デイケア、ステイ、ショートステイ）の皆様と交流を行っています。まだ、コトニアガーデン内で会った時に挨拶を行う事しかできていませんが、今後は以前のように誕生会への参加の声かけや、運動会後にテラスで種目を披露したり、散歩前には施設へ遊びに行ったりできたらと思っています。
- 高齢者施設の他、学童施設や生活介護事業所との交流も行っております。栽培物を同じ畑で育てたり、畑に必要な看板作りを行ったりしています。
- 晴れた日には近隣の公園や隣にある夢見ヶ崎公園へ散歩に行き、肌で自然を感じ、思い切り発散して帰園します。
- 園内のホールでは異年齢の交流を盛んに行っています。幼児クラスの活動の見学や乳児クラスの活動のお手伝いも行っています。また、散歩へも異年齢で出掛け、探索や集団遊びを一緒に楽しみしています。
- ホールや2階廊下にて雨の日でも各クラスで順番に身体を動かすことができ、雨の日にも多様な取り組みが可能です。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月8日（契約日）～ 2023年11月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（令和2年度）

⑥総評

- 特長**
近隣施設をはじめとした地域交流に努めている
- 園の敷地がある複合施設は鉄道会社が都市開発した複合施設となっており、複合施設内には高齢者施設をはじめとし、店舗などが入っている。コロナ禍での影響で複合施設内の交流は少なくなったものの今後は、交流の再開を予定している。コロナ禍においても複合施設を管理している鉄道会社の駅に園児たちの絵を飾ってもらったり、区の作品展に園児たちの作品を制作した様子の写真や資料を飾ってもらうなどして地域交流に努めている。また、近隣には動物園をはじめとする公園があり、園児たちが自然と触れ合える機会を多く設けられるようになっている。
- 充実した保育環境と新しい取り組み**

本保育園は、若手職員が多く、発想力や挑戦の意欲を重視しながら、共に保育に取り組む姿勢を大切にしている。その中で、家庭的な保育を目指し、温かな環境を提供している。法人主体であるが、リモートを通じた海外保育園との交流など新しい取り組みもあり、子どもたちだけでなく職員にとっても新鮮で楽しい経験を得る機会となっている。今後もこの取り組みを継続し、充実させていくことを目指している。

保育の柔軟な適応と信頼関係の構築に取り組んでいる

クラス単位だけでなく、各職員が全体の子どもたちを適切にサポートできるよう配慮している。入園時には保育園での約束事についても丁寧に伝え、共有することで、保護者との信頼関係が築けるように努めている。新入園児には、慣れ保育を行い、1か月を目安に徐々に保育時間を延長し、通常の保育スケジュールに順応できるようサポートするとともに、保護者の就労状況や復帰時期に柔軟に対応し、ゆっくりとしたペースでの適応を心がけている。

今後期待される点

事業計画の内容を保護者にわかりやすく伝える工夫などが期待される

事業計画書は園のエントランスに閲覧用のものをファイリングして保護者がいつでも閲覧できるようにしており、保護者懇談会や運営委員会などで内容の説明を行うよう努めているが、時間の都合等により詳細な説明は行っていない。保護者に対して、その内容をわかりやすく伝える工夫について検討中である。

保育の振り返りを行う時間の確保について

保育の振り返りの時間確保が難しく、急な変更があり次の予定が立ちにくいなどの課題がある。時間の確保については人員の確保も必要だが、現状でも取り組まなければならない重要な課題であることを認識しており、着実に取り組んでいく予定である。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を行う事で、園に対しての保護者の考え方や今後すすめて行くことが具体的に感じたように感じました。また、園内で足りていない部分や園長としてどのように運営をしていったらよいのかなども知る事が出来ました。

園運営についてもっと職員と話を一緒に作り上げていくような話し合いが出来るようになればと感じました。

取り組んでいくにはまだ時間が必要になるかと思いますが、少しずつ取り組み努力をしていこうと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり